

「世田谷こども守る会」1周年記念イベント
「給食について、考えてみよう！」
2012.6.30

講義スピーチをそのまま文字に書き起こしました。一部、文字に起こせない聞き取り不明瞭な部分もありますことをご了承ください。

【第三部】「関根先生の“給食は教育だ”」

～区立北沢小学校栄養士 関根美知子先生～

く司会からの紹介： 区長に要望書を出されたタイミングが同時期でした。栄養士の先生が無理な検査体制が不可能。

可能なやりかたを先生からアドバイスもらっている。

私は、昨年3月に退職した、今はアルバイトの栄養士。

学校給食をみんなと一緒に、考えたい。では、自慢話をする。

世田谷は小学校、中学校10校くらいをまとめて太子堂調理上で作っている。

親子給食、ひとつの学校で作ったのを子学校にもっていく。

自校給食、自前で作る。(1)業者委託(業者に学校にきてもらって施設を借りて作る、(2)直営方式(区の調理師がその場で作る)と2パターンある。

自校方式には、正規雇いの栄養士がこない。正規じゃないからといって、仕事は減らせない。

料理士と一緒に栄養士とともに作っていたので、アルバイトでもいいからといって質を下げわけにいかない。

北沢小学校の内容 児童数154人・6学級・各学級1クラス・職員数20名

学校給食へのおこだわり 学校給食の充実、学校給食を教材としての食教育である。

学校給食は選べない。栄養士は自分の思いのある献立を立てる。画一的な給食じゃなくて、形を変えた給食をやりたいと考えている。

- ① 青空給食 年に1回
- ② お誕生日給食 先生とともにランチルームに集まって食べる
- ③ バイキング給食(2回 6年生) ミニバイキング給食
- ④ ふれあい給食 祖父母を呼んでやる。
- ⑤ その他、セレクト給食

学校給食を教材としての食教育。献立を立てるときに、なぜ、この日の献立をたてたか、子供たちになにを伝えたいかを考える。日めくりカレンダーをやっている。内容は、つぼづけの歴史や背景など。

とうもろこしを給食に出すときに、子供たちが鞘をむく。

毎年、長年交流のあった岩手の生産者のところに子どもたちを連れて行っていたが、が311以降、余震もありやめている。

岩手から食材ももってきてもらって授業を行うというもの。

「世田谷こどもを守る会」1周年記念イベント
「給食について、考えてみよう！」
2012.6.30

堀ともこさんから、厚生省ダイジェスト版を見て、岩手のしいたけをみて、使えないが、岩手としいたけは切れないので、今は22年度産の干しいたけを使っている。

岩手の生産者から、お手紙で、今年のしいたけを生産しました。ぜんぶ汚染されました。全部燃やしましたという手紙。原木のしいたけ。去年も燃やしました。

岩手のしいたけ、地球のお掃除。というテーマで出前授業やってもらっていたが、今年はやせない。

宮古のお魚、もまだ、学校に卸す状態にない。

塩も1kg2000円のものを使っている。塩が違くと味が違う。これも使えなかった。非常に残念でならない。

大豆と仲良くなろう。大豆を撒いて、苗を育てて、枝豆で食べたり、加工品としてきなこをつくったり、豆腐を作ったりしている。

しかし、検査する必要がある。しかし、校庭の小さなスペースで育つものはわずか。検査用にすべて使ってしまうことになってしまう。

なにか良い手がないか教えてほしい。

給食は生きた教材

1976年に瀬田小学校で栄養士をはじめた。仲間の栄養士がとても意識が高く。添加物、できあいのルーなど。『複合汚染』（※備考7）という本（有吉佐和子著）子供が選べない。栄養士が選べないといけない。

農薬で目をやられて、農薬が怖いとなって、無農薬、有機栽培農産物を導入する。

チェルノブイリ事故

0-157

※備考7：『複合汚染』（ふくごうおせん）は有吉佐和子の長編小説。

1974年10月14日から1975年6月30日まで朝日新聞に連載された。

連載中から大きな反響を呼び、連載終了前の1975年4月に新潮社から単行本上巻が出版され、

7月に出版された下巻とあわせてベストセラーとなった。現在でも環境問題を考える上でしばしば言及される

ロングセラーとなっており、レイチェル・カーソン『沈黙の春』の「日本版」にも例えられる。（Wikipediaより抜粋）

学校給食の採用では、規格品じゃないとダメという規制のために、断られた。

熊本、愛知、長野、千葉、群馬から無農薬、有機農産物を買うことができるようになった。

チェルノブイリの事故後、有機農産物は選ぶことができる。が、放射能が入ったものは選ぶ

「世田谷こども守る会」1周年記念イベント
「給食について、考えてみよう！」
2012.6.30

ことができない。

すぐに、すべての会社に輸入がヨーロッパとなっている場合に電話して、チェルノブイリの対応しているのかどうか問い合わせたが厚生省が大丈夫と言っているので、大丈夫。という回答。

○-157対策生野菜もダメ。(今もだめ。) 洗えば大丈夫なのに。今だ、とめられている。

より安全で、安心な食材でがんばっていた。が、311以降、わたしは、何ができたか。

- ① 今まで培ってきた考え方
- ② 保護者から指摘

無農薬で作っている生産者を守らなければならない。北沢の給食は安全でおいしい。狭間で悩んだまま、昨年4月、原発のことが給食連絡にかけなかった。

保護者の一人から東のものは親が食べるから子供にはすべて、西のものを取ってください。牛乳やめてください。

味噌汁、汁物もやめてください。関根先生らしくありません。(がっかりしました)と。

保護者の方に来てもらって、とことん話し合った。東京電力を使っているから、というのは、大人のエゴだ。子供には関係ない。当時の校長からは、都や区、厚生労働省から何も言われてないから、なにもするな、と言われた。

まず、牛乳から対処した。

(もともと、文部科学省から基準があるが、牛乳を減らしている。味噌汁やスープを食べさせたいから、牛乳取らない。)

区長と会った。保坂区長から、「僕はやりますよ」と言ってもらえた。

献立がばらばらで調べようがない。という話になった。区長は、給食体制をまったくわかっていなかった。そこで、こども守る会を知った。保護者はみな、勝手。思いが強く、勢い激しくくる人々もいる。栄養士も悩んでいる。一緒になにかしていかなければならぬ。ということから(こども守る会と)一緒にやりはじめた。

一食分を検査する。食材HPに載せる。

今後の学校給食は、現場の栄養士は悩んでいる。みんなで考えて見ましょう。

###